



258号

発行所 / 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者 / 病院長 吉野 茂文 印刷 / (株)アートネクスト



胃がん腹腔鏡手術風景

このたびは関門医療センターに赴任しました山本常則と申します。私は山口大学医学部卒業後に当センターで2年間初期研修をさせて頂いた後、その後は山口大学消化器腫瘍外科学講座に入学して上部消化管領域、主に胃がん診療を中心に研鑽を積んでまいりました。今回、当センターの胃がん診療について少し解説させて頂きます。



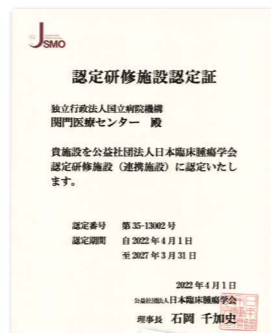
外科 やまもと つねのり 山本 常則

胃がん治療について

〔胃がんとは〕 胃がんは欧米と比較して特に日本人に多いがんとして、新たにがん診断される罹患数は大腸がん、肺がんに次いで3番目に多いです。初期には自覚症状が少なく、進行するとみぞおちの痛みや食欲不振、黒色便などの症状が現れます。早期に発見されれば高い治療率が期待できるため、検診で異常が見つかった場合や症状がある場合には、速やかに専門医を受診することが重要です。 当センターは消化器内科、外科ともに胃がん治療に携わる多くの熟練した専門医が在籍しており、さまざまな状況下にある胃がん患者さんに対して連携して治療を行うことができます。厳しい施設基準をクリアして、2023年4月より日本胃癌学会認定施設(A)に認定されており、地域の胃がん患者さんに安心して治療を受けていただける環境が整っています(2024年現在、山口県内では当センターと山口大病院のみ)。 〔外科治療〕 遠隔転移がなく、内視鏡

治療による切除が難しい場合には、手術による治療が推奨されます。手術のアプローチには腹部を20cmほど切開する開腹手術と、腹壁に小さい穴を開けて腹腔鏡と専用の器具を挿入して手術を行う腹腔鏡手術があります。当センターでは患者さんの体の負担の少ない腹腔鏡手術を積極的にを行っています(2023年は胃がん手術の90%を腹腔鏡で施行しています)。 切除する胃の範囲はがんのある部位と進行度によって決まりますが、代表的なものには胃全摘術、噴門側胃切除術(上部の胃がん)、幽門側胃切除術(中部、下部の胃がん)があります。当センターでは、がんの根治性に問題ない範囲で、胃全摘を避けて残せる胃を極力温存するように腹腔鏡下噴門側胃切除・幽門

側胃切除術を積極的に行っており、患者さんの術後の生活の質にも配慮した医療の提供を心掛けています。 〔化学療法〕 進行胃がんや術後再発リスクの高い患者さんには、化学療法(抗がん剤治療)を検討します。当センターはがん薬物治療に精通する優れた医師の養成、医療の向上を目的とした日本臨床腫瘍学会の「認定研修施設」に認定されており、最先端の抗がん剤治療を地域の患者さんに提供しています。山口県出身のノーベル賞受賞者、本庶佑先生が開発に携わられた免疫チェックポイント阻害剤の胃がん患者さんへの使用経験も多く、今後開発される新規抗がん剤についても、エビデンスに基づき積極的に導入を行ってまいります。



外来診療担当医一覧表

2024年6月1日

Table with columns for Group Name, Clinic Name, Day, and Doctor Name. Includes various departments like General, Women's, Circulatory, Neurological, Cancer, etc.

赤字は今月の変更分です。

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号

国立病院機構 関門医療センター

診療受付時間：午前8:30~11:30

午後(各診療科外来にお問い合わせください)

※休診日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29~1/3)

★代表

★地域医療連携室(医療関係者専用)

★透析センター

https://kanmon.hosp.go.jp/

TEL(083)241-1199

FAX(083)241-1301

TEL(083)241-1191(2561)

FAX(083)241-1302

FAX(083)241-1308



5月12日は近代看護を築いたフーレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで「国際看護師の日」と制定されています。看護の日は、21世紀の高齢化社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を育むきっかけとするため、全国各地で多くのイベントが開催されました。



令和6年度
看護の日
イベントを開催しました

専門医療センターでは、看護師が患者さんやご家族と交流を図ることを目的に、5月29日(水)に看護の日のイベントを開催しました。2020年より新型コロナウイルス感染症が流行し、規模を縮小して行っていました。今年度は感染流行前の規模で開催し61名の参加がありました。

外来では、各部署の看護の様子をパネル展示し、身長、体重、BMI測定や看護師による相談ブースを設けました。ブースに来られた患者さんから「前もしていたね。懐かしいね。」「お世話になりました。久しぶりにお会いできてなりました。」

「このイベントを通じ、地域の皆さんに当センターの看護を知っていただけたのではないかと思います。ナイチンゲール人々の幸のために身を捧げんとあるように、これからも患者さんや地域の皆さんの幸せのために最善を尽くしていきたいと改めて考える1日となりました。」



外来看護師長
おかだ あい
岡田 愛



北九州市の病院から赴任いたしました。
下関は小学校卒業以来で、25年振りです。その間にゆめシティ等ができてきたり、変わっているところもありますが、街並みは大きく変わっておらず、懐かしく感じております。
下関の医療に貢献できるように頑張ります。



循環器内科医師
たけなか ひとし
竹中 仁

下関市の出身です。幼少の頃は、御船手海岸やマリノランドでよく遊んでいました。慣れ親しんだ場所での働けることに不思議な縁を感じます。ふるさとの医療を支えるべく微力ながら頑張ります。

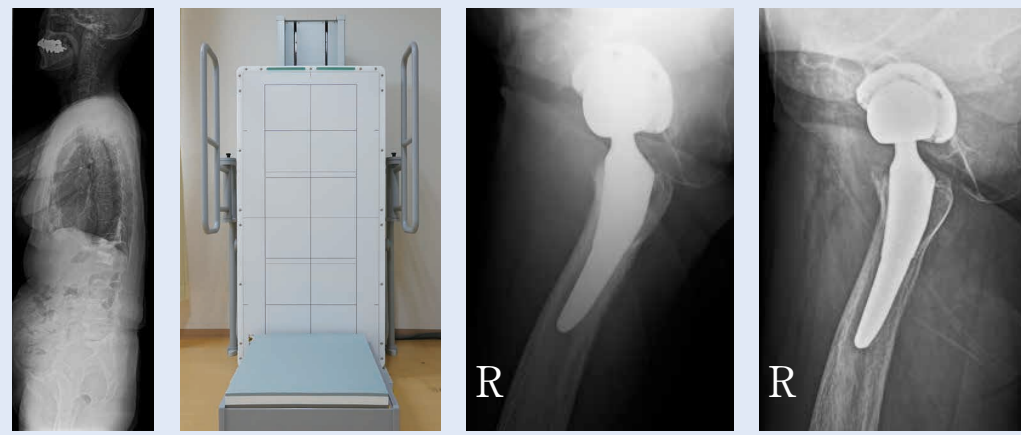


循環器内科医長
はらだ こうじ
原田 耕志

はじめまして
新任医師紹介

一般撮影装置が新しくなりました

当センターでは2024年3月に一般撮影装置が新しくなりました。装置が新しくなったことで、何が変わったのか疑問に思われると思いますが、大きく変わった点は、2つあります。



全脊椎側面像 長尺撮影装置 股関節軸位像(更新前) 股関節軸位像(更新後)



1番撮影室



診療放射線技師
いけだ かずや
池田 和弥

1つ目は、「画質の向上」です。画像処理技術(Virtual Grid)により、被験者の体格が異なる場合や、人体の厚みの異なる部位でも、キレイに描出できるようになりました。

2つ目は、「被ばく低減」です。検出器が「フラットパネルディテクタ」になったことで、少ないX線量で撮影することができるようになりました。当センターでも撮影部位にもよりますが、従来と比べて最大3割の線量をカットしています。

また、今回の更新で長尺撮影装置を導入しました。この装置は、脊椎側弯症や変形性膝関節症(OA)など全体のバランス評価のために全脊椎や下肢全長を撮影する装置です。従来と比べて画質が向上し、また短時間で画像処理ができるようになった事で、患者さんの負担を軽減した検査を行うことができます。

* 診療看護師として *



診療看護師
いしだ みきと
石田 幹人

私は看護師として20年以上の経験を経て、大学院で2年間医学的な座学と臨床実習を修了した後、認定試験を合格、また21区分38行為の特定行為(医療行為)の研究も修了し、この4月に診療看護師として復職しました。

診療看護師は、アメリカ発祥の資格でナースプラクティショナー(NP:エヌピー)と呼ばれていますが、日本においても2011年に認定制度が始まり、「患者さんのQOL(生活の質)の向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師」と定義されています。

NPは全国でも1,000人に満たないため、まだ医療業界での認知度も低い資格です。最近では、医師の働き方改革のキープソンとして、しばしばメディアに取り上げられているようです。国立病院機構全体では110名以上のNPが就業し、全国で活躍しています。

NPは侵襲的な医療行為の一部ができますが、看護師であることには変わりありません。看護師の仕事には、「療養されている患者さんの身の回りの世話」と「医師の診療の補助」があります。この度、私はこの資格取得とともに「診療部(医局)に配属されました。今までの病棟での受け持ち看護師の仕事とは異なりますが、今まで培った看護師としての経験に加え、大学院での医学的な学びを生かし、深い思考と状況判断を行い、重症化の回避やより良い医療を提供できるよう、「チーム医療の橋渡し」的な役割を担えるよう頑張っていきます。

病院で見かけることがありますが、遠慮せずお声掛けください。



NPIは医師の診療の補助を担います